

あびの文化

発行人 藤井 吉彌
我孫子市寿 2-21-23
04(7185) 1996

プロジェクト報告会&懇親会を開催

■日時 十月二十七日(日)午後1時30分〜4時
 ■会場 我孫子北近隣センター並木本館ホール
 ■参加費 1500円(飲み物、茶菓・つまみ付き)
 昨年に続き今年もプロジェクト報告会を開催します。活動中の各プロジェクトの進捗・内容の報告は勿論ですが今回も会員同士の懇親・親睦を重視した運営を考えていますので、新しく会員になられた方、今まで参加できなかった方は是非お越し下さい。

我孫子の文化を守る会

特別講演会

- 日時 十一月九日(土)午前10時〜12時
 - 会場 あびのシヨップ・ピングプラザ 3F
我孫子市民プラザホール
 - 講師 高 康治氏(会員・世界の人の形館・代表)
 - 参加費 無料
 - 後援 我孫子市教育委員会、我孫子市国際交流協会
 - 「異文化を学ぶ会プロジェクト」主催
- (以下講演概要)

265 カ国・地域を旅したワールド・トラベラーが語る 「世界の紛争地帯を訪れ、世界の平和を考える」

当会での「世界を旅して」講演シリーズの第3弾は、去る6月12日〜7月11日の直近の旅の報告も兼ね、過去20年間に渡り歩いた世界の紛争地帯の実情と実効支配が絡んだ領土問題など生々しいノンフィクションのお話をしたい。また、真の世界平和とは何か、今一度考えてみたい。

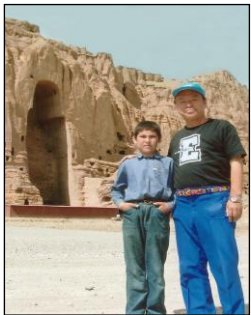
今回訪れたのは、モルドバ、謎の独立国(?)沿ドニエストル、次の冬季オリンピック開催地のソチをはじめとす

る黒海沿岸のロシアの諸都市、ロシアが実効支配する独立国(?)アブハジア、火種が絶えないロシア連邦内の共和国チチェン・北オセチア・ダゲスタン、アルメニアと同国が実効支配する独立国(?)ナゴルノ・カラバフ、グルジアと同国内のアジャリア自治共和国、イラクのクルド自治区、アラブ首長国連邦の首都アブダビ。この旅を終え、訪れた国は199、地域は66、合計は265カ国・地域になる。最近「私はワールド・トラベラー 世界257カ国・地域を旅した男」という拙書を出版したが、この本で紹介した257の数字も過去形になった。

商社マンからスタートして半世紀近く世界の表裏を見聞して来たが、エリートではなくどちらかと言えば主に世界の裏街道を歩いた。その多くは、一般的に危険と言われる紛争地帯である。世界の総人口は70億人を超え、3人に1人は紛争地帯に住むと言われる。過日の旅でも、チチェン・アブハジア・オセチア・カラバフのコーカサス地方、イラクがその例である。

上記のほかに、過去に訪れた主な紛争地として、アフリカはソマリア・ルワンダ・アンゴラ・コンゴ民主(旧ザイル)・コンゴ・スーダン・南スーダン・シエラレオネ・西サハラ・マリ・エリトリアなど、アジアは北朝鮮・アフガニスタン・カシミール・東ティモール・ミンダナオ島(フィリピン)・チベット・新疆(中国)・タジキスタン・スリランカなど、中近東・北アフリカはパレスチナ・イスラエル・シリア・レバノン・エジプト・アルジェリア・リビア・イエメンなど、ヨーロッパはボスニアヘルツェゴビナ・セルビア・クロアチア・コソボ・チチェン・キプロス・バスク(スペイン)・北アイルランドなど、中南米はフォークランド・キューバ・アメリカ・コロンビア・エルサルバドルなど、オセチアはフィジーがある。

紛争の原因は種々あるが、或る国の実効支配下にある紛争地帯が多く、我が国周辺の尖閣諸島、竹島、北方領土もこの実効支配問題が絡む。現地でも撮った生々しい写真を紹介しながら、世界平和についても言及してみたい。



第110回史跡文学散歩(報告)

「旧柴崎村に残る将門伝説の地を訪ねる」

牧田 宏恭

6月30日(日)、史跡文学散歩当日を迎えた我孫子は、このところ梅雨とは名ばかりの雨不足気味の天気が続いており、本日も散歩には降雨の心配は不要の日和となった。

私は、「我孫子地名考」にて、当会前会長をつとめられた三谷和夫氏のご講演を拝聴する中、お話の内容を通じ、当会の活動に大きな関心を抱き、昨秋「我孫子の文化を守る会」に入会させて頂いたこと、この「史跡文学散歩」には入会後今回が初めての参加となった。

さて、集合地の天王台駅には、先般、我孫子市発行の「広報あびの」にも散歩の勧誘の記事が掲載されたこともあり、非会員の方24名を含め、総勢40名弱の大勢の参加となり、みなさんの関心の大きさに驚かされた。

一同、予定通り9時過ぎに天王台駅(北口)を出発した。

出発時刻を過ぎたころから、予報に反し、気温は急上昇、かなり蒸し暑い中での散歩となった。

本日は、10世紀半ば、ここ「相馬の地」一帯を震撼させた、平将門の数々の伝説を残す、ゆかりの地の一つである「旧柴崎村地域」を、約3時間掛けて巡る散歩であり、本会副会長を務められる越岡禮子氏の、熱心なご説明と丁寧なご案内の許、天王台駅近くの旧水戸道中が通っていたとされる地点を皮切りに、水道局裏の昔面影をそのまま残す道中(旧道)の林道(志賀直哉の著にも風情が描かれているとの説明)を見学し、続いて、雨乞いの祈願社(石尊宮)で別名イボの神様といわれる所以のお話を聞き、次に平将門の家臣(久寺豊後、丹後)の末裔(?)である大井家が護り、菅原道真公(本当は将門を祀ったとされている)を祀った柴崎天満宮を訪ねた。

さらに将門の家臣、柴崎様の墓を経て、現在でも我孫子で最も趣を残していると言われる旧街道(道中)

の梅沢家醤油屋、川村家酒造屋、須藤家(菓種屋)などの重厚な構えの家並を見ながら、北条氏康開基とされる東源寺に向かった。境内の千葉真指定(昭和10年)の天然木である「まかや」の大木(荘厳?な存在感)には圧倒される何かの力?を感じた、この木陰に僅かながら涼風を感じ一息入れることができた。

この大木も、当地ゆかりの文人である志賀直哉の「十一月三日午後のこと」にも描かれているとの説明があった。但し志賀直哉は東源寺には立ち寄ったという記述は無いという。

そして、本日の散歩の最終地近くの円福寺にて、鮎大師についてのお話などを伺い、続いて、立派な社が印象の柴崎神宮を訪ねた。

なお、本日訪問の円福寺、東源寺はそれぞれ相馬霊場55番並びに75番札所となっている。

本日は、かなり蒸し暑く感じる天候であったが、散歩は充実した3時間であった。

最後に当会の会長の藤井吉彌氏の「挨拶で締めくくられ、柴崎神宮にて現地解散とし行事は無事に終了した。」

あびこだより 58号

記紀にある伊勢神宮、出雲大社の成り立ちに見る初歩の古代史

一 伊勢神宮・出雲大社と古事記・日本書紀一

藤井 吉彌

昨年末に、式年遷宮で話題になっていた伊勢神宮と出雲大社に行ってきました。伊勢神宮では1300年に亘り20年毎に繰り返されてきた社の建替えを、竣工直前に拝見でき、木材の部材全てが単純な直線で構成されている事に大変興味を持ちました。又柱が掘立式であることも形式を受け継いでゆく様式として納得できました。

出雲大社では正面入り口の石張りの床に平成12年に出土した高層社殿の柱の遺構が別の石材で標されており、その巨大さ(直径1mの杉材を3本束ねる)に

驚きました。

両神社を回って、両者の関係、その成り立ち等を調べてゆくと、日本の成り立ちに関わる神話が元で、天皇が誕生し、初期の大王と呼ばれた時代には多くの身内の葛藤があったことを知りました。これまで実在を裏証された天皇は雄略(二十一代)が初めてであること、卑弥呼と天皇の関係など、私が初めて知った事でした。今回は弥生、古墳時代の初歩の古代史をお話します。

(十月六日の「放談くらぶ」で講演予定)

あびこだより 59号

激動の幕末 密航留学を企てた志士たち

伊藤 一男

今から丁度百五十年前の一八六三年、上海に向けて横浜港を出帆した汽船の石炭庫には、五人の長州藩の若者が潜んでいた。彼らは英国・ロンドンに密航留学を企てたのである。

彼らの名は、井上聞多(馨)、当時28歳、のちの「外交の父」。遠藤権助、当時27歳、のちの「造幣の父」。山尾庸造(庸三)、当時26歳、のちの「工学の父」。伊藤俊輔(博文)、当時22歳、のちの「内閣の父」。野村弥吉(井上勝)、当時20歳、のちの「鉄道の父」。いずれも二十代の若者である。

密航留学を企てた中心人物は誰か?幕府が締結した不平等条約の破棄と強硬な攘夷を唱える急先鋒が長州藩であった。しかし攘夷の真の目的は開国であった。それは吉田松陰か周布政之助・高杉晋作へ、さらに井上聞多へと受け継がれた開明的思想であった。当時の長州藩は激動の最中であつたが、藩政を司っていた周布政之助が、同じ島国の英国が海軍力で世界をリードしていることに注目、「その背景を学べ」と、密航を画策した。メンバーはリーダー格の井上聞多を含む上記の五人と決まった。

では、密航留学を仲介したのは誰か?周布政之助が伊豆倉(長州藩の御用商人)の番頭・佐藤貞次郎に手配を

依頼。これを受けて佐藤は、ジャーディン・マゼソン(J・M)商会横浜支店に話を持ち込んだ。話ほとんど拍子で進み、上海経由で英国・ロンドンに送り込むことに決定した。だが問題は渡航費用であった。長州藩の予測では五名の渡航費用は計六百両であった。しかし「M商会では渡航費と一年分の学資、生活費等が一千両/人、計五千両必要とのことで、井上聞多が伊豆倉から五千両を借用した。担保は長州藩麻布下屋敷に保管されていた鉄砲購入用の一万両であった。

五人が密かに横浜を発つたのは一八六三年六月二十日であった。国元の下関で攘夷運動を始めたのとほぼ同時。そもそも井上、山尾、伊藤の3人までが、品川御殿山の英国公使館焼打ちに参加し、その足でロンドンに旅立とうという有様であった。出発前日、井上は長州藩の重役たちに長文の手紙を認め、勝手な金策を詫びた。

上海J・M商会で渡航の目的は?と訊かれ、「Havy(海軍)を学ぶため」のつもりが「Navigation(航海術)を学ぶため」と誤解され、水夫見習いとして扱われた。ひとまず上海に渡った五人は、J・M商会が用意した三隻の帆船に分乗し、喜望峯周りで百二十日かけてロンドンに着いた。

当時のロンドンの様子は如何?ヴィクトリア女王時代の最盛期で、「鉄と石炭の時代」であり、人口約三百万人の大都市(江戸は七十万)であった。高層建築、蒸気機関車による鉄道のほか、世界初の地下鉄もその頃すでに開通していた。

五人の留学生を受け入れて世話をしたのは誰か?それはロンドン大学(UCL)の化学の教授・ウィリアムソン博士であった。五人の日課は、朝夕は博士宅で算術や英語の勉強、昼間は「UCL」の聴講生となり、化学分析の実習、自然科学など、合間に国会議事堂、大英博物館、銀行、上下水道等を見学した。彼らは驚きと感動の連続であり、「列強に伍するには文明が不可欠だ!これらを持ち帰ろう」と決心した。

.....
その後の彼らの動きは?そして、帰国後の彼らの功績は?

十二月八日の「放談くらぶ」で詳しくお話したい。

「プロジェクト実施報告」

我孫子市の巨木・名木を訪ねる会

(第2回調査報告)

8月14日(水)、市中巨木の会員9名(男性7名・女性2名)による第2回調査が実施された。我孫子駅に8時50分、猛暑が予想されるのにかかわらず総勢9名が集合し調査に出発した。当日の行動予定:

我孫子駅→久寺家地区→鷲神社→宝蔵寺→久寺家→解散の予定。

前日は日本列島各地で40度を超える酷暑を記録し、この日も灼熱予報は厳しいものであったので「市中を無理無く見廻りをし、巨木偵察を楽しみ市中の文化を守りつつ、自身の健康維持に努める」目的から外れない行動とした。

久寺家地区 個人所有樹木(M氏邸)

*梅の木(樹高13.7m、幹周240cm、推定樹齢150年)

*椿の木(樹高13.0m、幹周3連130+82+60cm、推定樹齢150年)。(ウメ・ツバキは幹周200cm以上で巨木と判定する)

(M氏邸の80歳になる老女の話では、嫁いだ当時に大きな梅の木と椿の木があったとのこと。推定樹齢を150年とした)

久寺家地区 個人所有樹木(W氏邸)

*ムクノキ(樹高25.0m、幹周340cm、推定樹齢?)

(文化の会に好意的な「主人」)

鷲神社境内

祭神は日本武尊。万延二年(1861)現台地に再建され、神社境内にシラカシ・クスノキ・スタジイ等の鎮守の杜があるが巨木は見当たらなかった。

宝蔵寺

真言宗豊山派・明王山宝蔵寺、本尊は延命地藏開山、開祖不詳。元和三年(1617)創建。戦国期の久寺家城二の郭跡地で周辺には土塁の痕跡がある。新四国相馬霊場八十四番屋島寺移し(この地形が屋島に似ている)となっている。

*宝蔵寺のザクロの木・名木(樹高5.0m、幹周2連153

cm、推定樹齢?)

*参考樹木(市指定保存樹木)イチヨウ(樹高19.4m、幹周250cm、推定樹齢?)

博報堂駐車場内(二階堂高校南側)

(駐車場整備に伴い伐採される危険性があるので監視していききたい樹木である)

*ネムノキ(樹高7.0m、幹周180cm、推定樹齢?)(ネムノキは幹周100cm以上で巨木と判定する)

体感温度は35度を超えて血液が煮えたぐってきた感じでR6号「夢庵」にて昼食、解散。

我孫子市の巨木・名木を訪ねる会

(第3回調査報告)

9月11日(水)、市中巨木の会員13名(男性8名・女性5名)による第3回調査が実施された。

暦の上ではこれから日ごとに秋が深まる季節だがまだ残暑が続くような気配のなか、北柏駅に8時50分に集合し調査に出発した。

当日の行動予定

北柏駅→根戸城址の森→武者小路旧邸跡→ハケの道→水神社→根戸船戸緑地公園→根戸古墳公園→白山中学→我孫子四小→白山馬頭観音→我孫子駅(解散)

根戸城址の森

根戸城は16世紀後半に築かれ、手賀沼を望む台地にあり水上交通と陸上交通の接点の地で戦略上非常に重要な城郭であった。土塁と空堀によって区画された城郭施設が残っているが、築城主やこの地の覇者が誰であったかは定かでない(高城氏・築田氏・相馬氏)。*杉の木の植林の為か、戦中・戦後の燃料確保の為か雑木は伐採された様であり、巨木は見当たらなかった。

武者小路旧邸跡

白樺派の文豪 大正5年(1916)から大正7年の2年間この地で文学創作に没頭した。その後「新しき村」の構想を抱き宮崎県に去った。

*門外から手入れの行届いた庭園が窺えたが邸内へ入

ることが出来ず偵察を断念した。

根戸船戸緑地下ハケの道

個人所有樹木(根戸新田124K氏邸)

*クスノキ(樹高15.7m、幹周302cm、推定樹齢300年、樹勢旺盛・枝張15m)

*参考樹木・タブノキ(樹高15.0m、幹周236cm、我孫子市中ではタブノキが余り見かけられないので記録する)

水神社

祭神は水速命(みずはやのみこと)。草創年代不詳、大正14年建立石碑に天保の頃の社殿由来が記されており境内地の年代の古いことが知られる。

*ムクノキ(樹高28.8m、幹周299cm、推定樹齢?、樹木名版あり)

根戸船戸緑地公園

*公園内植物の手入れが行届き樹木名板も掲示されて市民の森として良好な状態であるが巨木は見当たらなかった。

根戸(白山)古墳公園

我孫子では最後の時期に造られた古墳が保存されている公園である。

*管理状態良好である公園だが巨木は見当たらなかった。

我孫子四小

*ソメイヨシノ(樹高12.0m、幹周360cm、推定樹齢100年、樹勢旺盛)

白山馬頭観音堂

(白山215めばえ幼稚園入口の標識近く)

馬頭観音堂については所有者・地権者は資料不足につき不明。今後の調査に期待する。

*エノキ(樹高15.0m、幹周270cm、推定樹齢?、幹周判断では巨木判定は無理であるが、独立樹の道標の木として巨木とする)

11時50分、小雨が心配されたが降られることなく当日の予定の偵察行動を完結し解散。

【行動時間:3時間、歩行数:8000歩、調査巨木本数:5本】

楚人冠俳句「序跋詩歌集」より 杉村楚人冠

昭和六年秋

ささやかな朝顔咲きぬ物のかけ

天の川夜半過ぎて西に流れけり

苦をはねて時間ふ水主(かこ)や天の川

引けば去り放てば来る鳴る子かな

ぢゅと鳴き又ぢゅと鳴く蟲のあり

むきさしの柿のナイフやにじむ澁

怨霊の澁柿となりし物がたり

夜寒さをひとりごちつゝ通りけり

流れより菰の荷札や後の月

献穀の一枚早き刈田かな

陵に鳥が啼いて朝寒し

今年度会費(二千円)納入のお願い

本会はひとえに会員皆様方の会費によって運営されています。郵便振替口座(00190-3-135176)『我孫子の文化を守る会 伊藤一男』宛お振込みください。

第112回史跡文学散歩のお知らせ

「江戸に残る将門ゆかりの地を訪ねる」

私達の町、我孫子はかつて平将門の領地であったと伝わっています。平安時代中期、将門は関東の大半を手中に収め、「新皇」を自称し、東国の独立を標榜したことによって朝敵となり、藤原秀郷らによって討伐されました。しかし初めて武士の力が認められたことで武士の台頭の契機となり、民衆からは英雄と崇められました。

時代は下り、徳川幕府は将門を江戸の鎮守として神田明神の祭神としました。かつて江戸市中には他にも日輪寺、筑土八幡神社など、将門伝説を残す古蹟がありました。

今回はこれらの将門に係わる史跡を案内します。
1. 日時 十一月十七日(日)

JR我孫子駅改札内9時集合(小雨決行)千代田線「お茶の水」迄切符購入(3時頃解散)

2. コース 神田明神→湯島聖堂→三ツライ堂→平将門の首塚→大名小路→東京駅他
(湯島聖堂、三ツライ堂で特別拝観の予定)

講師・ガイド 越岡禮子氏(当会副会長)
参加費 会員 無料、非会員 500円

申し込み TEL&FAX (七二八四)二〇四七
越岡まで (締め切り) 11月10日(日)

今後の行事予定

□ 「放談くらぶ」

日時 10月6日(日) 14時～16時
会場 アビスタ、第5会議室

講師 藤井 吉彌氏(本会会長)

演題『伊勢神宮・出雲大社と古事記・日本書紀』
(レジメを本文に掲載)

◎参加費 会員無料 非会員三〇〇円

申込み・問合せ先 佐々木(七二八五)〇六七五

プロジェクト開催予定

「歴史文化くらぶ」

日時 11月2日(土) 14時～16時

場所 我孫子市北近隣センター並木本館
我孫子市並木5丁目4番6号

(我孫子駅北口徒歩8分)

話者 三谷和夫氏(本会前会長)

「相馬八十八ヶ所物語」

参加費 200円(会員無料)先着20名
申込み・問合せ先 三谷(七一八三)一〇七七

「異文化を学ぶ会」

日時 11月9日(土) 10時～12時

場所 あびこショッピングプラザ内3階
我孫子市民プラザホール

講師 高 康治氏(世界の人形館代表・会員)

「世界の紛争地帯を訪れ、世界の平和を考える」
(一面に詳細掲載)

「関東建築探訪」(予定)

日時 11月5日(金)

場所 文京区の椿山荘、関口台東京カテドラル聖マリア聖堂、鳩山会館等

「第4回我孫子の巨木・名木を訪ねる会」

日時 10月9日(木) 8時50分、我孫子駅南口階段下

集合
内容 八坂神社→興陽寺→香取神社→大光寺→三樹荘→楚人冠公園→子之神大黒天→我孫子駅の予定。(樹木が好きな方、巨木・名木に興味のある方…奮ってご参加ください)

散歩部会

9月29日(日)第111回史跡文学散歩

11月17日(日)、第112回史跡文学散歩

手賀沼部会

9月29日(日)「川めぐりと木下の史跡めぐり」

研修部会

8月4日(日)放談くらぶ「日本の歌「荒城の月」そして3・11以降」

講師 倉田 茂氏

10月6日(日)放談くらぶ「伊勢神宮・出雲大社と古事記・日本書紀」

講師 藤井 吉彌氏

〇市民フタタに参加します参加

11月30日、12月1日

次回役員会予定

日時 11月3日(日) 13時半～15時半

場所 けやきプラザ1F工作室

編集後記

2020年の五輪が東京で開催されることが決まったニュースは日本人にとって最近では明るいニュースだった▲1964の東京大会の時、自分が何歳でどんな状況であったかを思い出したのではないだろうか?又、7年後、自分は何歳でどうなっているかについて考えを巡らし、そして多くの人(特にお年寄り)は少なくともあと7年は生きようと前向きに考えたに違いない。(美崎)